

議長定例記者会見 会見録

日時：令和8年5月1日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 冒頭発言

2 質疑項目

○議長の任期について

○次期統一地方選挙について

○役員選出のスケジュールについて

1 冒頭発言

(議長) 改めまして、おはようございます。ただ今から、5月の議長定例記者会見を開催いたします。本日、発表事項はございませんが、議長に就任してから約1年が経ちましたので、少し感想を述べさせていただきます。この1年を振り返りますと、三谷議員、平畑議員が相次いで逝去され、県政を支える同志を2人も失ったことは悲しみの極みであり、県議会にとっても大きな損失でありました。このような悲しいことがありました一方で、補欠選挙で新たに4人の仲間をお迎えし、新たな仲間とともに、2期目を迎えられた一見知事と、県政の発展や県民福祉の増進に向けて、議論を尽くしてまいりました。この1年間、取り組んできましたことを3点申し上げたいと思います。1点目は、女性や若者など多様な人材の活躍の推進であります。全国都道府県議会議長会が策定いたしました「多様な人材が輝く議会のための17の提言」を踏まえた取り組みを進めてまいりました。例えば、主権者教育の推進に向けて、広聴広報会議が中心となり、「みえ県議会出前講座」を三重大学に加え、新たに鈴鹿大学でも実施したほか、四日市大学で「みえ現場 de 県議会」を開催し、学生らと意見交換を行い、さまざまなご意見をいただきました。これらは、若年層に議会・議員への関心を高めていただくための一助という点で、大きな成果であったと考えております。また、多様な人材が議員として活躍しやすい環境を整備するため、2月には「多様な人材が輝く議会のための議員研修」を開催し、ハラスメントの防止や、立候補しやすい環境への取り組みに向け、議員一人一人の意識を高めました。2点目は、三重県議会基本条例制定20周年に向けた取り組みであります。三重県議会は、平成18年に、都道府県で初めて議会基本条例を制定しました。本年12月に制定20周年を迎えるにあたり、これまでの三重県議会の取り組みを図表で分かりやすく示したコンテンツの制作を、議会改革推進会議にお願いいたしまして、5月12日の代表者会議で報告がある予定であります。3点目は、全国豊かな海づくり大会の開催を契機とした政策の検討です。昨年は、41年ぶりに三重県で「全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～」が開催されました。県議会では、令

和7年5月に「豊かで美しい三重の海づくり調査特別委員会」を設置し、調査・検討を進め、「豊かで美しく親しみのある海づくりの推進を求める意見書案」を取りまとめ、全会一致で可決いたしました。その後、森野副議長、山崎委員長、廣副委員長により関係省庁へ提出したほか、特別委員会から知事に対して提言を行ったところであります。私自身、大会に参加し、改めて、三重県にとっての海が、水産業や県民の暮らしにとって重要なものであるとの思いを強くしたところであり、タイムリーな提言になったと考えています。以上がこの1年間の感想でございますが、私がこういった活動に力を注ぐことができたのも、森野副議長が本県議会の運営をしっかりとお支えいただいたおかげであり、議員各位、関係者の皆さんのおかげであると感謝しているところであります。令和7年度の成果を生かし、今後、一層活動を充実させ、県民の皆さんからの負託に全力で応えてまいりますので、報道機関の皆さまにおかれましても引き続きのご協力をお願いいたします。私からは以上でございますが、この1年間、私を支えていただき、広聴広報会議の座長としてもご尽力をいただきました森野副議長からも感想をいただきます。よろしく願いいたします。

(副議長) それでは、私からも、副議長に就任してからの1年間を振り返りまして、少し感想を述べさせていただきたいと思っております。まず、先ほど議長からもありましたけれども、同じ会派の仲間でありました、三谷議員と平畑議員が相次いで逝去されました。私にとっても非常に悲しい、寂しい出来事でありまして、今でも会派の部屋に行きましたら2人の声が聞こえてくるような気がして、まだ実感が湧かないところでもありますが、心からご冥福をお祈り申し上げたいと思っております。私は、昨年の所信表明会におきまして、服部議長がその職責を円滑に果たせるように補佐するとともに、二元代表制のもと、議会議論が活発かつ建設的に行われ、円滑な運営が実現されるよう努めたいと申し上げ、議長と連携し、全力で職務に取り組ませていただいております。議長におかれましては、私の意見も尊重していただき、議会を運営していただきましたことに感謝を申し上げたいと思っております。次に、広聴広報会議の座長という立場で振り返ってみますと、議会の広聴広報機能のさらなる充実に向けまして、委員の皆さんとともにさまざまな取り組みを進めてまいりました。「みえ県議会出前講座」では、先ほど議長からもご紹介いただきましたとおり、新たに鈴鹿大学でも実施をいたしまして、小中高等学校から大学まで幅広い世代を対象に、計14校と多くの学校で実施をすることができました。また、本年8月に開催予定の「みえ高校生県議会」に向けた準備をいたしておりますけれども、前回の参加者や広聴広報会議からの申し送り事項を踏まえまして、開催前の事前ミーティングにおきまして、参加生徒が議員と質問内容につきまして相談できる機会を拡充するなど、参加生徒の負担軽減に向けまして、内容の見直しを行っているところでもあります。「みえ現場 de 県議会」におきましては、10月に四日市大学で開催いたしました

た第1回は、初めて防災・減災をテーマに、学生の皆さんと意見交換を行ったほか、第2回は14年ぶりに離島の観光をテーマに、2月に鳥羽市で開催をいたしまして、地域の方々の生の声を聞かせていただくことができました。その他、広報紙におきましても、廃止になっておりました今後の議会日程の記事を復活させるなど、より多くの県民の皆さまに手に取っていただき、参考にさせていただけるよう工夫を重ねてまいりました。次の広聴広報会議の委員の皆さんにも、令和7年度の成果を引き継いでいただき、引き続き、広聴と広報の両面で開かれた議会となりますよう、取り組みを進めていただきたいと期待をしているところであります。最後に、この1年間、三重県議会の副議長という重責を全うすることができましたのも、県民の皆さまから応援いただき、先輩・同輩議員の皆さまのご助力、執行部や関係者の皆さまのご協力のおかげでありまして、深く感謝を申し上げます。報道機関の皆さまにも、議会の広報について、いつもご協力をいただきましたことに、改めて厚く御礼申し上げます。引き続きまして皆さまからのご支援を賜りますようお願い申し上げます。私からは以上でございます。

(議長) 以上でございます。

2 質疑項目

○議長の任期について

(記者) 幹事社不在で、代理で私させていただきますので、よろしく申し上げます。冒頭のご発言で、突然議長として1年間を振り返っていただいていますね。締めくくりで、引き続き負託に応えるというふうにおっしゃっていただきましたけれども。つまり、議長は続投されるということですか。そこらの表明がない中で1年振り返っていただいたんですね。どういったお考えかというそこを改めて確認します。

(議長) 私自身、1年間を振り返りまして、本当に議員の皆さんから支えていただき、議会事務局の皆さんからもご理解をいただいて、お支えをいただきました。特に、私自身は負託に応えるというのは議員として、一県議会議員として、これからも三重県のために尽力させていただきたいと、こういった思いが強くございますので、今回、役員改選の、4月10日ちょうど定例記者会見がございました。ちょうど私の誕生日だったんですが、その折にもいろんな質問をいただきまして、記者からもいただきました。議長をもう一度続けるのかどうかというようなご質問もございました。ちょうど令和3年の代表者会議の申し合わせ事項の中に、議長は2年の任期(正しくは、「2年以内」)はございますけれども、1年を区切りにして、辞任届を出すというのが慣例になっておるということも含めて、私その時点ではあまり気が付いておりませんでしたことをお話しもさせていた

できました。負託に応えるということはやはり議員一人一人が自覚を持って、議長であり副議長であり、その他、議員であり、やはり任期を全うしてそれでまたさらなる、この統一地方選挙は来年の4月にございますけども、そういった意味で、しっかりと県民の負託に応えるべく努力をしなければいけないと、このように考えておりますので、その点は、3点だけお話はいたしましたけども。5月18日まで任期はございますので、実際に今度の5月5日、今の県政150周年の式典もございます。そういったところも含めて、出席をさせていただいて、任期を全うしようということでございます。おいおいまたご質問あれば、付け加えさせていただきたいと思っております。

(記者) その県議としての任期の話は、また後で聞きますから。とりあえず議長としての、今後の進退。制度上ですと、このまま議長として議員の任期まで、議長を続けることは可能なわけですね。

(議長) いや、これはですね。

(記者) あ、ごめんなさい。そんな中で、今度の役選では、辞任されるのか。それか続けられるのか、まずここですね。すみません。

(議長) この5月18日がちょうど、正副議長の申し入れをするときでもありますので、実際に私は、辞任届を出し、そしてまた、議長に再度立候補することは、私は考えておりません。ですから新しい議長、副議長のもとで、県政運営をしていただければありがたいなと考えております。

(記者) そのように考えられた理由は、やはり近年の議長が1年で辞任しているという慣例を踏まえてということでしょうか。

(議長) この4月の定例記者会見の中でも、4月中に会派でもいろいろと会派総会をして話をさせていただこうと、このようなことをお話をさせていただきました。その時にも、当然今、これ5月1日ですから、もう4月に会派で打ち合わせをいたしまして、その冒頭に、私自身は、今度再度、議長に立候補することはございませぬので、よろしく願いますということをお話をしました。また、会派のメンバーも、議長、服部さんがそうおっしゃるのであれば、新たな議長、副議長という形の対応をしなければいけないねというところで終わらせていただいて。これからどのように、わが自民党県議団は動いていくのかどうか、これはまだこれからのこととございますので、また改めて会派総会もありますので、その時に決定をしていくということとございます。

(記者) 議長ご自身でもう辞任しようというふうにご判断されたわけですね。その一番の理由って何ですか。やはり、先ほど申し上げたとおり、近年の議長が1年で辞任されているという経緯を踏まえてということですかね。

(議長) 当然代表者会議の申し送り事項もございますので、辞任届を出す。その前に、こういった5月の定例記者会見の中で、ご質問等があれば、お話をさせていただこうかなと思っていました。だから4月の時点ではもうすでに、私自身は再選はしませんということを話をしておりました。来年4月の統一地方選挙に向けて、しっかりと対応もしなきゃいけない。1年間で、本当に満足させていただいた思いが出てきましたものですから、ここで議長は辞任をさせていただいて、また次のステップに対して、しっかりと活動していこうと、このように考えるようになりました。

(記者) 一番お尋ねしたいのは、先月の会見では、一定続投への意欲もあって、なぜみんな1年で辞めるんだらうかというようなご発言もありましたけれども、でも、今回ご判断された理由、一番の理由ってというのは、その慣例を踏まえたということか、それかもう、今のご発言で1年で満足させてもらったとおっしゃいましたけど、そういうところが一番大きいのか。

(議長) 議長の仕事を、まず最初、当選させていただいて、議長として全県を回らせていただいたり、全国の会議も出席させていただいたり、いろいろと経験をさせていただいて、非常に充実した1年であったと思い始めてまいりまして、次の段階にしっかりと対応するには自分の、失礼な言い方ですが、また一議員としての時間も必要でございますので、そういった意味では今回の一番の、次の段階で議長の選挙に出ませんよというのは、全国海づくり大会も天皇皇后両陛下のもとで随行させていただいたり、今年は150周年の式典にも参加をさせていただいたり、しっかりとした充実したときであるなと思いましたが、それのほうが強いです。来年の統一地方選挙に向けてに関しては、自分自身がしっかりと前を向いて、努力をさせていただこうと思っているところでもございますので、まだ1年間ございますので、そういったところは今後、皆さんと相談をしながら進めさせていただこうと思います。ですから、この県政150周年の節目の年に、議長をさせていただいて5月5日の式典を迎えることは私にとっても名誉なことでもございますので、本当に満足する1年であったと思っております。

(記者) 前回の4月の記者会見のときにはね、やっぱり皆さん慣例に基づいて、1年で辞めていかれることへの疑問のお声もあったわけですよ。前回のそういう思いが今はなくなったのか、やっぱり、1年でどんどん辞めていっているって

事情への疑問は今も持たれているのかといったらどうですか。

(議長) その人その人個人の、やはり満足度の問題だと思うんですが、なかなか難しいんですが、2年の任期(正しくは、「2年以内」)でありながら1年で辞任届を出していくということは、あんまり私は、失礼ですけども、よくないのではないかなと思っています。2年任期であれば2年をやられて、やっぱりあと1年、頑張ってみようかなという方もあるかと思しますので、実際にこれは、今まで1年でほとんどの方が次の議長にバトンタッチしてみえますので、私もそういう考えがどんどん出てまいりましたので、1年で短いのか、長いのか、満足するのか、そういうことは日々暮らしている、活動してる中で、もうそろそろやっぱり一議員に戻って活動しなきゃなというのは、ふつふつと湧いてまいりますので、そういったところで先月の4月10日の定例記者会見の思いとは、どんどんどんどん、やっぱり変わってまいりました。

(記者) とりあえず幹事社、以上です。

○次期統一地方選挙について

(記者) 改めてお伺いしますけども、来年の春の統一地方選挙への出馬の意向についてのはいかがでしょうか。

(議長) はっきりとはお話は今しませんでしたけど、来年の統一地方選挙にも、去年の5月の記者会見、あくまでも改選のときの、皆さん集まっていたいて記者会見開かせていただきました。その時も、来年の、今度の統一地方選挙に対しても立候補したいという旨を、皆さんの前でお話をいたしました。ちょうど1年前でございます。ですから、今回も同じように、県議選に立候補しようという思いは強く持っておりますので、その点まだ1年間ございますので、出馬する意向で努力したいと思っております。

○議長の任期について

(記者) ありがとうございます。あと少し事実関係の確認なんですけども、自民党県議団の会派のメンバーに、議長職の辞任の意向を伝えたのはいつになりますか。

(議長) 4月20日の会派総会です。

(記者) あと、ちょっと議長職の任期の申し合わせのルールがちょっと事をややこしくしてるかなというふうにも思うんですけど、議長自身は2年以内という申し合わせがあるにもかかわらず、1年で辞めるっていう慣例に対して疑問視

されてるわけですが、この制度、そもそも慣例で1年であれば、もうそういうふうに申し合わせを変えるっていうふうに、今後こう意見していくっていう可能性はあるんでしょうか。

(議長) 今質問いただきましたけども、これは令和3年の代表者会議で、1年で辞任をし、届けを出し、そしてまた再度出馬することは別にいいですよというように、代表者会議での申し合わせがございますので、私1人がこうこうこれだと個人の意見を申し上げても、なかなかこれは難しいと思います。ですから、それは個人の、議長になられた方の、なった議員の考え方という形で、今まで1年で辞めてこられましたので、私も実際に1年でという思いは、4月20日に会派総会するとき、もう私は冒頭に皆さんに話しました。もう再度出馬することはございませんということをお話したので、それはもう、自民党県議団のわが会派も、皆さんが了承していただきましたので、あえて今5月1日の、今日は最後の定例記者会見でありますので、私としてもお話をさせていただいたということでもありますので、ご理解いただきたいと思います。

(記者) ありがとうございます。あと4月10日の会見ではちょっと続投にも意欲を示しつつ、今回5月に入って、辞任の意向を示されたということですが、この間にあったこととしては、やっぱり4月18日に150周年の記念式典もあってっていう、ちょっとその辺で思いが変わったっていう感じなんですかね。

(議長) 今150年の節目の県政、年でございますので、そういった意味で150年にふさわしい式典を、5月5日にしていただけるということでもありますので、皆さんが想像されるより私の進退に対して、議長職を辞めるのか辞めないのかという、想像していただくといけませんので、いろんなことをお話も言われる方あると思います。想像して。まだもう1回再度出てくるじゃないとか、当然新しい人が出てくるだろうとか、いろんなことを言われないうちに、任期5月18日まで、辞任届を出すまでは議長として努力をさせていただくというふうに考えております。ですから、節目の年というのはやっぱり、非常にあるかわかりません。4月18日が県民の日ということも含めて、本来は、今日5月1日ですから最後の定例記者会見になるということをお踏まえて、今、お話をさせていただきました。

○役員選出のスケジュールについて

(記者) あとすみません、これ議長にというよりちょっと事務局にお尋ねしたいんですけども、次の正副議長選の日程っていうのは、どういう形が想定されますか。

(事務局) 5月12日に代表者会議を開きます。そこで決まり事とかの確認をしてもらって、14日、15日、18日を今予定しておりますけど、代表者会議で役員を選出方法とか各会派の配分等協議を進めます。最終的に19日の本会議で役員を選出する、そのようなスケジュールになっております。

(記者) ありがとうございます。

(議長) よろしいですか。他にございませんか。

○議長の任期について

(記者) しつこく何度も聞きますけど。もう名残惜しさはない。

(議長) これは、議会事務局の、仲間と言ったらおかしいですか。職員の事務局の方と、そして副議長。このメンバーでもう1年、来年やらせていただくというのであれば、大いにうれしい限りであります。本当によくやっていただいて、楽しくもあり、そしてまた名誉でもありというようなことを1年間やらせていただきましたので、ありがたいなと思っております。

(議長) よろしいですか。

(議長) どうも皆さん1年間、大変お世話になりました。ありがとうございます。また、これからも議員として活動いたしますので、どうぞまたご理解いただきますよう、よろしく願い申し上げます、この定例記者会見を終わらせていただきます。ありがとうございました。

(以 上) 11時00分 終了